

米国経済の現状、将来をつかむ

《質問》 米国経済の現状、将来をつかむ主なポイントは。

回答

米国経済の現状、そして将来の経済動向を見るうえでのポイントは『財政赤字の行方』、『雇用を中心とした経済指標の動向』、『超低金利政策の行方』を捉えるにつきますといえます。

ご存知の通り、米国では財政赤字削減が一つの大きなテーマとなっています。この財政赤字は、大型減税やリーマン・ショック後の追加景気刺激策などに伴う財政負担に一つの要因があるといえます。また、過去を遡れば、イラクやアフガニスタンにおける戦費負担の増大も大きな要因といえます。

残念ながら2011年11月に、財政赤字の削減内容に米国議会の合意を得られず、強制的に1.2兆ドル以上の赤字を10年間かけて削減される予定です。しかしながら、果たしてそれだけで累積赤字に対して抜本的な解決を図ったといえるのかどうかは、疑問も残ります。本年の米国大統領選でも取り上げられる一つのテーマといえるでしょう。米国が永続的発展を遂げるにあたって、短期・長期双方の面で財政赤字の行方については知ってお

くべきといえます。

次に、経済指標についてお話しします。米国経済を見るうえで最も重要視したい経済指標の一つに、「雇用統計」があります。雇用は改善基調にあり、雇用増→消費増→生産や投資の増加→雇用増といった好循環が続いており、足元では景気の持ち直しが続いていると捉えることができます。この結果は、他の指標でも見るすることができます。例えば製造業生産をみても金融危機以後、確実に増加していますし、住宅関連指標にも底打ちが見られます。こうした米国経済指標については、為替や株式市況にも大きく影響を与えます。住宅・雇用・金利などは特に見ておくべき指標といえるでしょう。

そして最後に、簡単にではありますが、米国の超低金利政策の行方について話します。FOMCの声明文では、現在の超低金利政策が2014年遅くまで続く見通しとうたわれました。この時間軸政策は、長期金利を低く抑える効果があり、景気の下支えに一役買っているといえ、物価上昇と失業率の低下が確実に描けるまでは金融緩和が続くといえます。

上記のような点を注視しながら、米国経済の流れを大局的につかめるように日ごろから新聞やインターネットで情報収集に努めておくといえます。